

開講科目名 / Course	コミュニケーション論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	関根 剛	
担当教員名 / Instructor	関根 剛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	コミュニケーションにおける言語的、非言語的な表現の大切さを理解し、的確に情報を得る方法と、実践的な表現能力を身につけることを目標にする。コミュニケーションについて、情報を「受信する」「理解する」「発信する」という観点から講義を行う。将来の看護職者として役立つ知識として、コミュニケーションのあり方、異文化、リーダーシップについて解説する。また、グループエンカウンター、プレゼンテーション、プロセスレコードについて体験を通じた理解を深めさせる。	
到達目標	1. コミュニケーションが受信、理解、発信で成り立つことを説明できること。 2. 自分が感じたり考えたりしていることに関心を持ち、言葉で表現できること。 3. 自分と異なる他者の価値観や知識、考え方の違いを列挙できること。 4. 自分の考えを伝える方法を理解し、実際に行えること。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01. オリエンテーション：コミュニケーションをとるということ 02. グループ・エクササイズ：自分らしさに気がつく 03. プレゼンテーション・スキル（1）：情報を発信する 04. ボディ・ランゲージ：手話、動作と表情 05. プレゼンテーション・スキル（2）：実際に発信してみる 06. 知覚・行動観察法：情報を受信する 07. 文化とコミュニケーション：情報を理解する 08. プロセスレコード：情報を理解する 09. コミュニケーション：報告・指示・依頼、受信・理解・発信 10. リーダーシップとメンバーシップ：集団の中の役割	
その他の授業の工夫	・グループエクササイズやプレゼンテーションを通じて、体験的自己理解を深める。 ・演習や話し合いを通じて、他者との違いに気づき、それを共有する機会を持つ。 ・前回の学習の疑問点などについて、回答をする時間を持つ。 ・毎回、知識確認テストや任意のミニレポートの機会を持つ。	
時間外学修	・日常生活におけるコミュニケーションの経験について、簡単なレポートを提出して思考の深化を図る（任意）。	
評価方法と評価割合	知識確認テスト・ミニレポート6割、総合レポート4割	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	関根剛：臨床心理士、全国被害者支援ネットワーク理事
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	カウンセリングの実践、相談員育成の教育研修に携わっており、これから対人援助職となる学生の自己理解のグループワークやコミュニケーションスキルを効果的に行う。	